



稗田環濠集落

かつて大和盆地には、たくさんの環濠集落がありました。集落を守るために、まわりに濠をめぐらしたムラです。鎌倉時代から存在していたと聞いています。武力が幅をきかせた時代に、水利を兼ねて造られたとのこと。

濠による防御は、珍しいものではありません。お城には堀がつきものです。今井町（橿原市）や堺などの商人町は堀を構え、そのなかで自治が行われていました。豪農の長谷川邸（長岡市）や中邸（東大阪市。大和川の付け替え工事を行った中甚兵衛の家）にも濠が現存します。賊から身を守る濠です。

大和郡山市の稗田環濠集落に足を運びました。幅10メートル、深さ2メートルほどの濠が集落を囲んでいます。そのほとんどは、石造りで整備されています。一部には、昔の雰囲気を残す自然堤が残っています。大きな亀が水面に顔を出し、人間の姿を見ると近寄ってきます。亀にとっては、餌をもらえる楽園？

集落の周辺には、新興住宅地があります。しかし、駅からの距離が少しあるので、田畑が集落を取り囲んでいます。古事記で有名な稗田阿礼を祀る賣太神社があるので、この頃から続く集落かもしれません。

稗田が濠を掘ったのは、鎌倉時代といわれます（記録がないので正確にはわかりませんが）。武力が幅をきかせ、寺



中嶋哲夫の「人事も歩けば」



▲稗田町に現存する環濠集落

院もが武装をした時代。すべてが腕力次第の時代です。その時代には、ムラを守る濠は必須だったのでしょう。集落の面積は約250メートル四方ですから、100世帯程度の人が集まって、防衛できるようにしたのだと想像します。

集落に入ると、昔からの民家が並びます。両側から塀が迫る細い路地があります。塀のなかには納屋や母屋があり、敷地は広いようです。T字路が多く、遠くを見通せる道はなく、よく行き止まりにぶつかります。集落のなかも防衛が意識されていると感じます。

250メートルの濠が4面ですから、濠の長さは、ほぼ1キロメートル。面積は1ヘクタール程度となります。集落面積は、250メートル四方と計算すれば、6.25ヘクタールです。濠は、集落面積の6分の1程度です。それが自衛のためのコストになっています。今の社会では、安全のコストを意識することは稀ですが、見えないところに多くのコストがかかっているのでしょうか。

(MBO 実践支援センター代表)